

新年あけましておめでとうございます。

新学期にあたり、少しでもお話をしておきます。

毎年元旦の最大の楽しみは、年賀状です。親しい人はもちろんのこと、滅多に会わない友人からの便りは格別なものがあり、近況を知るだけでも嬉しいものです。中には年賀状だけで繋がっているといった知人もいて、これまた面白いものです。

若い人からの年賀状は希望にあふれ、好感がもてますが、年配者の年賀状を見ると、私を含めそれぞれの人生の来し方行く末を思ったり、昨年を深く反省をさせられることもあります。

今年いただいた年賀状で最も心に残ったものの一つに、島崎藤村の「朝」という詩を書いて贈ってくれた人がいます。

朝

東の空に光りあり
そこに時あり 始^{はじめ}あり
そこに道あり力あり
そこに色あり 詞^{ことば}あり
そこに声あり命あり

作者の心は、知るよしもないのですが、元旦の陽光の中で読みかえし、新学期への思いを考えてみました。

私は次のように読み替えました。

新年の朝

「東の空に光りあり」とは、東天に出る朝日を浴びて、今年は光り輝く飛躍の年にしたい。

「そこに時あり始あり」は、この元初の一瞬、元旦の決意、一念が時のはじめであり、今年一年のすべてである。

「そこに道あり力あり」は、そのためには明確な目標と道筋をつくらねばならない。それが力である。

「そこに色あり詞あり」は、その目標を貫徹する過程には、様々な事があるだろう。しかしそれら一切の労苦は人生を飾る豊かな色彩である。

「そこに声あり命あり」は、声は力であり、命である。昨年よりは今年、昨日よりは今日と、共に励まし勉強においても部活動においても共々に勝利の人生を築こう！

どうでしょう！これが私の新年の決意です。

毎年各企業では年頭に経営者の新年のあいさつがあります。ここ数年は世界的な経済金融危機の中で、なんとか生き残りをかけて激変する時代の変化に対応しようとする内容のものがほとんどです。

ダーウインは進化論で「強いもの、賢いものが生き残れるのではない。変化に対応できるものが生き残れる」と言いましたが、時代の要請は変化への対応能力を求めていることは事実です。むしろ最近の急激な社会の変化を見るに、社会環境の変化に対応するだけでなく、常に自らの内に変化する意志を、さらには自らが社会の変革を目指す高い志を求めているようにも思います。

皆さんは、新年どのような決意をしたのでしょうか？

高校時代は、観念よりも行動、実践の中で未来のための基礎・基本を鍛えて欲しいと思っています。

互いに今年一年頑張りましょう！